

わがまちの環境を考える

温暖化防止対策の新しい枠組み 「パリ協定」が始まります



地球温暖化は、人類が直面する最大の脅威の1つです。世界気象機関は、主要な温室効果ガスである二酸化炭素の2017年の世界平均濃度が405.5ppm^{※1}に達し、過去最高を更新したと発表しました。地球温暖化の防止のため、実効性のある対策と行動が早急に望まれています。

そこで注目されるのがパリ協定^{※2}です。パリ協定は、2020年以降の地球温暖化対策を定めた国際ルールで、18世紀の産業革命前からの気温上昇を2℃未満に抑えるという目標を達成しようとするものです。

パリ協定を各国が着実に実施していくためには、温暖化防止行動に関して、透明性のある枠組みの強化が必要です。そこで各国には、温室効果ガス排出量の削減努力を共通の土台で評価するため、ガイドライン^{※3}に基づき、1年ごとに温室効果ガス排出量・吸収量を取りまとめたデータ^{※4}を報告することが求められています。この報告は、温室効果ガス排出量・吸収量の推移を把握し、効果的な政策や対策を打ち出すための重要な情報源となります。

本年5月には、IPCC^{※5}第49回総会が京都で開催されました。IPCC総会は、世界の地球温暖化対策に強い影響を及ぼす国際会議で、今回の総会ではガイドラインの更新・改良版が採択されました。今後、パリ協定の適用が始まると、この更新・改良版に基づいて、各国は温室効果ガス排出量・吸収量を算出・報告することになります。

「パリ協定」はいよいよ本番です。

※1…産業革命前の水準は、約278ppm

※2…2015年12月に気候変動枠組条約締約国会議で採択された国際協定（詳細は、平成28年12月号掲載の同コーナーをご覧ください）

※3…2006年IPCC国別温室効果ガスインベントリガイドラインのこと

※4…国別温室効果ガスインベントリと呼ばれる

※5…国連気候変動に関する政府間パネルと呼ばれる政府間機構

わたしたち大人は**未来**に何を残すか

地球温暖化の危機を訴える若者たちの抗議行動が今、世界規模で広がっています。

きっかけを作ったのは、16歳のスウェーデン人、グレタ・トゥーンベリさんです。彼女は「若い人たちは、わたしたちの未来が奪われようとしていることに怒るべきだ」と語っています。地球環境の危機を招いたわたしたち大人の責任を鋭く批判するスピーチが若い世代の共感を呼びました。

彼女がたった1人で始めた抗議運動は世界規模で広がり、今年3月半ばに行われた抗議運動には、150万人以上の若者らが参加するまでになりました。昨年12月には、第24回気候変動枠組条約締約国会議で演説したり、フランスのマクロン大統領やローマ法王などとも面会したりするなど、その活動が注目され、今年のノーベル賞の候補者にもノミネートされています。

地球温暖化の影響を受けやすい未来世代は、今わたしたち大人との世代間の不正をただそうと立ち上がっています。



執筆：環境省 環境カウンセラー 勝井明憲

問い合わせ

環境課環境グループ ☎298-1111（内線447～449）